

## 妊娠・出産・育児情報の数量的評価に関する研究

— 雑誌「ピー・アンド」6年分の分析 —

母子保健研究部 齊藤 幸子

共同研究者 愛育病院小児科 岡本 暁

### 要約

本報告の目的は、妊娠・出産・育児に関する情報の数量的評価の方法を確立することである。例として、一般向け雑誌に含まれる情報内容の量的な分析を試みた。妊娠・出産・育児の各領域をカバーしている雑誌「ピー・アンド」を対象とし、90項目の分類項目に従って、創刊号から1991年12月号まで計75冊の分析を行った。数量的評価はページ換算を基本とした方法を採用した。すなわち、ひとつの記事における各項目のポイント $P_i$ を $P_a / N$ であらわす。ここで、 $N$ はひとつの記事に含まれる分類項目数の合計を、 $P_a$ はその記事全体の占めるページ数をあらわす。項目毎に雑誌1冊分および1年分のトータルポイントを出し、6年分の推移を見た。その結果、雑誌「ピー・アンド」の情報内容の量的な特性としては、6年間を通じて、正常な妊娠や子どもの健康に関する情報が多く、異常妊娠や子どもの病気、事故に関する情報は少ないことが判明した。

見出し語 : 妊娠、出産、育児、情報、数量的評価

Study for Evaluation of Quantification of Information about Pregnancy, Childbirth, and Child Care  
Analysis of the journal "P.and" for six years.

Sachiko SAITO, Akira OKAMOTO

### Abstracts

The purpose of this study is to propose a new method of evaluation of the quantification of information about pregnancy, childbirth, and child care.

We try to categorize articles which are included in 75 volumes of the journal "P.and" into 90 items. We calculate the point ( $P_i$ ) of each items which are included an article as the formula  $P_i = P_a / N$ . Where,  $P_a$  means the number of pages of an article and  $N$  means the number of classification items of an article.

We accumulate every points through a volume and a year. And we analyze its transition for six years. As a result of this analysis, we find that "P.and" have much information of normal pregnancy and ordinary children than information of high risk pregnancy and illness and accidents of children.

Key words : Information, Pregnancy, Childbirth, Child care, Evaluation of quantification

## I 研究の目的

筆者らは本紀要において、情報の受け手側からみた育児に関する情報環境の実情を報告してきた。しかし、情報そのものについての分析は行っておらず、特に情報を量として捉える定量化の研究は他にも例を見ない。本年は、妊娠・出産・育児に関する情報の数量的評価の方法を確立することを目的とし、一般向け雑誌に含まれる情報内容の量的な分析を試みた。

## II 研究の方法

対象メディアとしてまず小学館の雑誌「ピー・アンド」を選んだ。「ピー・アンド」は1985年10月創刊で妊娠、出産、育児の各領域を1冊でカバーしている雑誌である。これを創刊号から1991年12月号まで計75冊を表1に示す分類項目に従って、分析を行った。分類項目は平成3年度厚生省心身障害研究「妊娠・出産・育児情報の数量的評価に関する研究」班で作成されたものである。<sup>1)</sup>

分析の対象とした記事は、妊娠、出産、育児に関わるものすべてで、広告、漫画、写真、付録も含まれる。数量的評価はページ換算を基本とした方法を採用した。すなわちひとつの記事におけるポイントPiをPa/Nで表わす。Nはひとつの記事に含まれる分類項目数の合計、Paはその記事全体の占めるページ数である。項目毎に雑誌1冊分および1年分のトータルポイントを出し、6年分の推移を見た。なお、創刊が10月のため1986年10月号から12月号を除いて、各年12冊として集計した。

## III 結果と考察

### 1 分類項目の妥当性と数量的評価の有用性

検索の作業は複数の者で行ったが、主観の違いによって発生する差異をできる限り少なくするため、予備練習や途中での分類項目の見直しなど調整をしつつ進めた。その結果表1に示す項目で対象誌75冊すべての記事の分析が可能であった。

しかし、ひとつの記事においてどれだけ細かく多くの分類項目をとるかににおいては検索者による差が出るようである。表2の小項目検索件数の集計表において、91年の件数2780とが他の年と比べ40%以上多い。これは検索者の違いが理由として考えられるので、さらに作業方法の検討が必要である。しかし今回の量

的分析方法では、一つの記事について項目を多くとればそれぞれの項目のポイントが減るわけで、以下に示す6つの領域で括って評価する場合はあまり問題にならない。従ってこの点はむしろ情報量を検索項目の件数によって推し量ろうとすることに比べ、ポイント計算による分析の有用性を表わしているとも言えよう。

### 2 ポイント計算結果 (大項目ごとの集計)

表3は小項目のポイント合計を括り、6つのカテゴリ一別に示したものである。年度毎のトータルでみると88年2271ポイントから89年は2108ポイントと減少している。これはこの時点で雑誌のサイズが変更になっており、1ページが大きくなった分、1冊のページ数が減少したことが影響していると考えられる。従って、ピー・アンドにおける情報量をポイントで捉えるにはこの年度で区切って考える必要が生じる。

そこで各年のポイントを年度ごとの%で示したものが図1である。6年間のトータルで割合の多い順は1位：健康な子に関する情報(33.8%)、2位：正常妊娠(27.1%)、3位：育児上の親側の情報(22.6%)、4位：分娩・出産(8.2%)、5位：子どもの病気・事故(4.23%)、6位：異常妊娠(4.20%)となっており、1~3位で計83.4%を占めていた。各年ごとの順位でも1~3位の中で入れ替わることはあるが、4位以降との入れ替わりはない。上位3項目は一貫して多くのポイント割合を占めていた。すなわち、ピー・アンドにおける情報を量として捉えた場合、順調な妊娠経過や健康な子どもに関する情報、一般の育児に役立つ親側の情報などが多くの部分を占めており、妊娠中の異常や子どもの病気・事故といったいわばトラブルに関する情報は割合として少ないことが分かった。

これは妊娠・分娩に関するカテゴリーを小項目で見ても同様である。91年度分を例にあげると、小項目5、8、9、11、12の分娩時の異常などにかかわる項目のポイント合計は48.9で分娩・出産カテゴリー223.3ポイントの21.9%であった。

## IV 結語

上記の方法で情報の数量的評価がある程度可能であることが判明した。対象とした「ピー・アンド」には異常やトラブルに関する情報は少ないことが分かった。しかし少ないからといって読者へのインパクトも小さいというわけではないのは言うまでもないであろう。

表1. カテゴリー一覧

- 母性保健 -

カテゴリーⅠ： 正常妊娠

1. 妊娠前
2. 妊娠の成立
3. 妊娠に伴う体の変化
4. 妊娠中の心身のトラブル
5. 胎児への影響
6. 妊娠中の順調な日常生活
7. 妊婦健診・母親学級
8. 妊娠合併症
9. 胎児のトラブル
10. 妊娠中の自助努力
11. 夫の役割
12. 正常妊娠中の食生活
13. 妊婦洋品
14. 夫以外の人間関係

カテゴリーⅡ： 異常妊娠

1. 出血
2. 切迫流産・流産・切迫早産
3. 多胎妊娠
4. 骨盤位（さかご）
5. 高齢妊娠
6. 妊娠中毒症
7. 着床障害
8. 子宮・卵巣の問題
9. 胎盤の問題
10. 羊水・羊膜の問題
11. 合併症妊娠  
（異常母体の正常妊娠）
12. 胎児のトラブル
13. 胎内感染
14. 前期破水
15. 妊娠中絶
16. 異常妊娠中の食生活

カテゴリーⅢ： 分娩・出産

1. 一般的な出産準備
2. 病・産院の選択
3. 分娩の兆候
4. 正常分娩の及びそのドキュメント
5. 異常分娩の及びそのドキュメント
6. 分娩法
7. 分娩時の栄養
8. 不正期産
9. 分娩時処置を必要とした  
何らかの異常
10. 出産から1か月健診（産褥健診）  
までの母体
11. 新生児の異常（入院中）
12. 出産にまつわる人間関係
13. 垂直感染
14. 出産にまつわる公的諸制度

- 小児保健 -

カテゴリーⅣ： 育児上の親側の情報

1. 育児概論（親側の問題）
2. 生理と避妊、性生活
3. 育児中の母親の病気（心身）
4. 授乳中の栄養
5. 社会的儀礼（個人的なもの）
6. 母子関係
7. 育児に関わる人間関係
8. ワーキングマザーあるいは共働き
9. 夫との人間関係
10. 父親の育児参加
11. 託児施設
12. 育児中を前提とした  
一般日用品・洋品など
13. 育児に関わる公的諸制度・法律・条約

カテゴリーⅤ： 健康な子の育児情報

1. 母乳栄養
2. 乳汁栄養
3. 離乳食
4. 幼児期の栄養
5. 睡眠・泣き・生活リズム
6. 日常生活
7. 身体発育
8. 健診・スクリーニング
9. 医療機関・医者
10. 精神・運動発達
11. 排泄
12. 育児洋品・玩具等
13. 環境
14. 教育
15. 子どもの自立・しつけ・社会性
16. 人格、個性

カテゴリーⅥ： 子どもの病気・事故

1. 新生児の病気
2. 先天性の異常
3. 呼吸器疾患
4. 眼科・耳鼻咽喉科疾患
5. 歯科疾患・口腔内疾患
6. 消化器疾患
7. 腎・泌尿器系疾患
8. 脳・神経・精神疾患
9. 皮膚疾患
10. 骨・関節・筋疾患
11. 感染症
12. アレルギー疾患
13. 小児成人病
14. その他の病気・難病
15. 予防接種
16. 事故および家庭養護
17. 病気と食事

今回の試みは情報をいわば物として見てその大きさを測った段階にとどまっている。今後は質的要素について検討を進めたい。

なお、本報告の一部は厚生省心身障害研究費による。

文 献

- 1) 岡本暁、他：妊娠・出産・育児情報の数値的評価に関する研究、厚生省心身障害研究「市町村母子保健活動の効率化に関する研究」平成3年度研究報告書、P79-86、1994.4.

表2 年度別該当記事数と検索項目件数

	85-86年	87年	88年	89年	90年	91年	合計
該当記事数	705	842	997	1041	1011	1033	5629
検索項目件数	1458	1387	1760	1671	1682	2780	10738

表3 ポイント合計年次推移

	85-86年	87年	88年	89年	90年	91年	合計
1 正常妊娠	588.40	531.40	538.30	517.30	716.80	553.10	3445.30
2 異常妊娠	55.80	86.50	96.10	91.30	116.00	89.70	535.40
3 分娩／出産	156.80	137.10	139.70	177.20	203.00	223.30	1037.10
4 親側の情報	516.00	430.50	600.50	388.60	419.80	522.20	2877.60
5 健康な子の情報	515.80	673.10	812.50	809.70	689.60	800.90	4301.60
6 病気／事故	63.60	95.90	84.20	123.90	87.30	83.60	538.50
合計	1896.40	1954.50	2271.30	2108.00	2232.50	2272.80	12735.50

図1 ポイント数の年次推移

